

# 看護学生の講義への期待や希望の内容と変化

—入学時から1年後の縦断調査を通して—

滝内隆子<sup>1)</sup> 大島弓子<sup>2)</sup> 佐々木真紀子<sup>3)</sup> 南雲美代子<sup>4)</sup> 酒井志保<sup>5)</sup>

## Changes of Student Nurses' Expectations and Hopes toward Lectures Through a Yearly Survey

Takako TAKIUCHI Yumiko OSHIMA Makiko SASAKI Miyoko NAGUMO Shiho SAKAI

**要旨：**本学は新設校であり、従来からの学生の学習ニーズを明確に把握できていないため、このニーズを探索することが重要であると考え、本学の学生を対象に、講義に対する希望や期待について質問紙による調査を入学時と2年次に実施した。79の有効回答を集計した結果、以下の結論が得られた。

1. 講義に対する期待や希望を記載した者は、入学時より2年次の方が多かった。
2. 記載内容をカテゴリー化した結果、入学時・2年次ともに9つの小カテゴリーになり、両者に共通してみられた小カテゴリーは“充実した講義内容”、“体験談をまじえた講義”、“楽しい講義”などの6つであった。
3. 小カテゴリーを内容のまとまりで分類した結果、入学時・2年次ともに『教師側へのニーズ』、『学生自身の姿勢』、『その他』の3つの大カテゴリーになった。2年次の方が入学時に比べ、『教師側へのニーズ』の割合が多かった。
4. 小カテゴリー中の“充実した講義内容”の具体的な記載内容は、入学時に比べ2年次は、「国家試験や実習に生かせるような講義」や「実践に役立つ講義」などの現実に直結した内容であった。

**キーワード：**看護学生、講義、期待や希望、縦断調査

**Summary :** Having passed short days from the establishment, our student nurses' needs of learning were not made certain. We surveyed them twice by questionnaire form ; firstly when they entered our college, and secondly when they became sophomore.

By analysing 79 effective answers, conclusions are obtained as followed ;

1. More answers are obtained from the second survey than the first one.
2. Free described answers are divided into 9 minor categories. Among these, 6 common desirable categories toward lecture are recognized, including “to be sufficient in contents”, “including various experiences”, “to be enjoyable”, and others.
3. A total of three minor categories “demands to lecturers”, “students' attitude”, and “others” are introduced by grouping A total of three minor categories .With regard to the “demands to lecturers”, more descriptions are observed on the second survey.
4. The second survey showed more specific requests on lecture “satisfactory lecture” in minor category which are directly connected to realities, like “ to be useful for bed side practice and for certificate-examination” or “to be useful for clinical practice”.

**Keywords :** Student Nurse, Lecture, Expectation and/or Hope, Yearly Survey

---

看護学科 1) 助教授 2) 教授 3) 講師 4) 助手 5) 助手

本研究は、第24回日本看護研究学会学術集会において、発表したものをまとめたものである。

はじめに

教授／学習過程において、学習者1人1人のニーズをふまえることは、教育効果からみて有効なことであり、その必要性を日々実感している。

また、学習者1人1人の持つニーズは学習過程で変化していくものであると考えられるため、その変化するニーズを適宜、把握したうえで、それに対応した教授活動も必要であると思われる。

特に、本学は新設校であり、従来からの学生の学習ニーズを要素的に特定化できてはいないため、このニーズを探索していくことが重要と思われる。

そこで、本学の学生が講義に対してどのような期待や希望を持っているのかについて、入学時調査<sup>1)</sup> (以下、入学時とする) と2年次調査<sup>2)</sup> (以下、2年次とする) を年度当初の授業開始時に縦断的に行った。

先行研究としては、梶山ら<sup>3)</sup>の看護学生の講義の受けとめかたに関するもの、佐々木ら<sup>4)</sup>の卒業生を対象にした看護系大学の授業に対する評価などはあるが、講義に対する期待や希望について縦断的に調査したものは、みあたらなかった。

なお、この研究は入学時と2年次の年度当初の授業開始時に実施した調査の一部である。

I. 研究目的

看護学生の講義に対する期待や希望の内容とその変化を明らかにする。

II. 研究方法

1. 対象：縦断調査に協力が得られた本学看護学科の1期生79人

2. 方法：

- 1) 入学時・2年次ともに、自作の質問紙を用いた集合調査。被調査者には、調査の目的を説明し、了解を得たうえで実施した。
- 2) 調査内容：項目は、入学時・2年次ともに、「講義への期待や希望」で、自由記載法とした。
- 3) 集計・分析方法：集計・分析方法は、入学時・2年次ともに、以下のように行った。
  - (1) 自由記載内容を1要素1内容に分類したのち、意味内容別にカテゴリー化を行い、それぞれのカテゴリーに命名した。このカテゴリーを小カテゴリーとした。また、小カテゴリー別に記載件数を集計した。
  - (2) (1)の小カテゴリーを、さらに内容が

類似するものを集め、大カテゴリー化し、その大カテゴリーに命名した。また、大カテゴリー別に記載件数を集計した。

(3) (1)と(2)の集計結果および記載者数、1人あたりの記載件数を、入学時と2年次で比較、分析し、差を明確にするために $\chi^2$ 検定を行った。

(4) 自由記載の具体的な内容を入学時および2年次ともに、おのおの分析を行った。

なお、自由記載内容の分類およびカテゴリー内容については、その分類の妥当性を高めるために、研究者間で一定期間をおいて3回分析、検討した。

3. 調査時期：入学時調査；平成8年4月  
2年次調査；平成9年4月

III. 結果

1. 講義への期待や希望の記載の有無 (図1)

入学時・2年次の講義への期待や希望の回答者数は79人。入学時は、記載者は42人(53.2%)、記載なしは34人(43.0%)であった。

2年次は、記載者は71人(89.9%)、記載なしは2人(2.5%)で、2年次の記載者が入学時に比べ有意に多い割合であった。(p<.001)

講義に対して期待や希望を持っている者は、入学時より2年次の方が多かった。

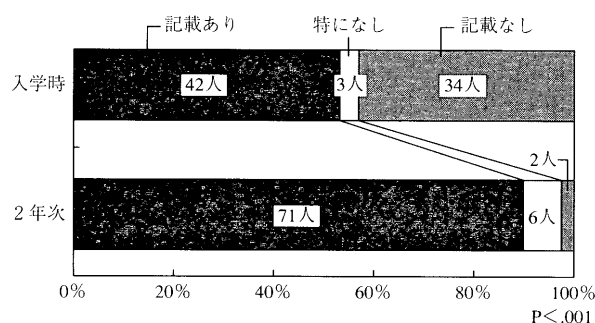


図1 講義への期待や希望に関する記載の有無 N=79(単位:人)

2. 講義への期待や希望の1人あたりの自由記載件数 (図2)

入学時の講義への期待や希望の自由記載の総件数は50件で、これを1人あたりの記載件数で見ると、1件の者は35人(83.3%)、2件の者は6人(14.3%)であった。

2年次では、自由記載の総件数は76件で、1件の者は66人(93.0%)、2件の者は5人(7.0%)であった。

1人あたりの自由記載件数は、入学時・2年次ともに1、2件と少なかったが、両者には有意な差はみられなかった。

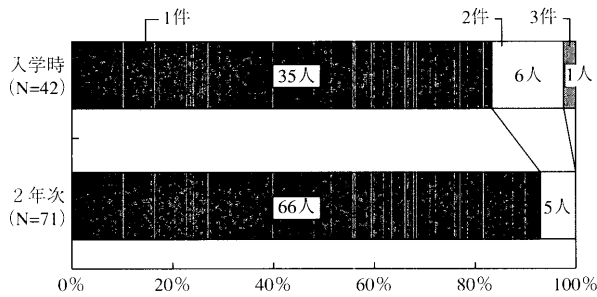


図2 講義への期待や希望の記載件数別にみた人数 (単位:人)

### 3. 講義への期待や希望のカテゴリー別比較

#### 1) 小カテゴリーの入学時と2年次の比較

(図3)

入学時の自由記載内容をカテゴリー化すると、小カテゴリーは9つになった。この小カテゴリーのなかに含まれている記載内容の件数でみると、多い順に“頑張ります”10件(20.0%)、“充実した講義内容”9件(18.0%)、“体験談をまじえた講義”8件(16.0%)、“楽しい講義”7件(14.0%)などであった。

2年次の自由記載内容をカテゴリー化すると、小カテゴリーは9つになった。この小カテゴリーのなかに含まれている記載内容の件数でみると、多い順に“教育方法の工夫”19件(25.0%)、“充実した講義内容”15件(19.7%)、“体験談をまじえた講義”11件(14.5%)、“楽しい講義”と“今のままでよい”が各7件(9.2%)などであった。

入学時と2年次を比較すると、小カテゴリー数は両者ともに9つであった。入学時のみあげられた小カテゴリーは、“頑張ります”“学ぶことへの不安”“学ぶことへの楽しみ”の3つで、2年次にあらたにあげられたカテゴリーは、“今のままでよい”“校内実習の充実”“知識・技術を身につけたい”の3つであった。また、両者に共通していたカテゴリーは、“充実した講義内容”“体験談をまじえた講義”などの6つであった。

次に、小カテゴリーに含まれている記載内容の件数が多かった上位3つを比較すると、両者に共通していた小カテゴリーは“充実した講義内容”“体験談をまじえた講義”であった。

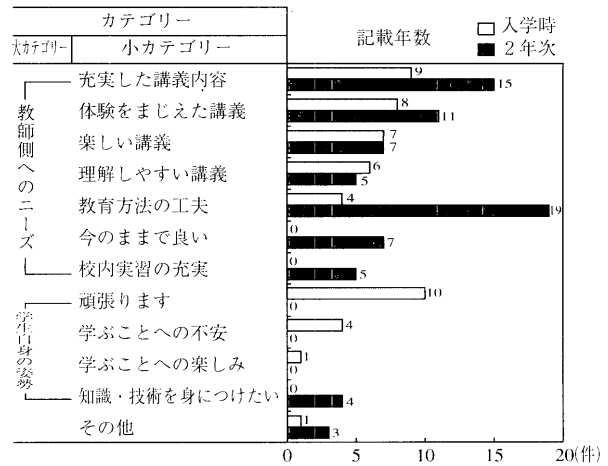


図3 カテゴリー別記載件数

#### 2) 大カテゴリーの入学時と2年次の比較

(図4)

入学時にあげられた9つの小カテゴリーは、内容的なまとまりでみると『教師側へのニーズ』『学生自身の姿勢』『その他』の3つの大カテゴリーに分類され、2年次も同様の分類であった。

次に、この大カテゴリーに含まれている記載件数を見ると、入学時では、『教師側へのニーズ』が34件(68.0%)、『学生自身の姿勢』が15件(30.0%)であった。2年次は、『教師側へのニーズ』が69件(90.8%)、『学生自身の姿勢』が4件(5.3%)であった。

入学時・2年次ともに、『教師側へのニーズ』が多かったが、2年次の方が入学時に比べ『教師側へのニーズ』の占める割合が多かった。

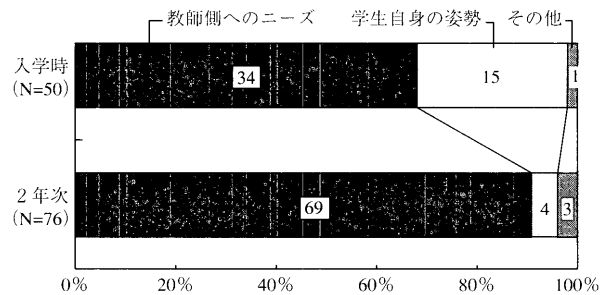


図4 大カテゴリー別記載件数 (単位:件)

#### 4. 小カテゴリー別の具体的な記載内容

小カテゴリー別の具体的な記載内容の主なものは、表1に示すとおりであった。

表1 カテゴリー別の主な記載内容

カテゴリー	学年期	入 学 時	2 年 次
教師側へのニーズ	充実した講義内容	・看護について少しでも多くの知識を増やせる講義 ・看護というものに対して、より深く理解できる講義。 ・看護婦になるための専門的な講義。 ・専門的な技術だけでなく、理論的な講義。 (9件)	・現場に出て使える知識・技術だけでなく広い視野を持てたり、興味を持ち、深く自分が知りたいと思えるような講義。 ・国家試験についてなども講義で取り上げてほしい。 ・国家試験、実習に向けて生かせるような講義。 ・実践に役立つような勉強。 (15件)
	体験談をまじえた講義	・先生の体験をまじえた講義 ・体験談などもたくさん取り入れた講義。 ・教科書から学ぶこと以外の先生の体験などの話。 (8件)	・先生方の看護体験 ・実際の看護の場面で起きた話。 ・病院等で先生達が実際にあった話。 (11件)
	楽しい講義	・難しいことも楽しく学べる講義。 ・楽しく興味を持てるような講義。 (7件)	・楽しく学べればいい。 ・楽しい講義 (7件)
	理解しやすい講義	・理解しやすい講義。 ・全然、知らないような分野なのでよりわかりやすい講義。 (6件)	・わかりやすい講義 ・理解できるような講義 (5件)
	教育方法の工夫	・ノートを取るだけでなく。 ・一方的でない講義。 ・教科書だけでなく、資料を使った講義。 (4件)	・資料やスライドをたくさん利用してほしい。 ・できるだけ口だけでなく板書してほしい。 ・板書してほしい (19件)
	今のままで良い		・今までの講義でいい。 ・今のままでよい。 (7件)
	校内実習の充実		・実技の時間をもう少し増やしてほしい。 (5件)
学生自身の姿勢	頑張ります	・今までずっと目指してきたことに関する講義なので、頑張ります。 ・予習・復習は絶対頑張ります。 (10件)	
	学ぶことへの不安	・看護について、聞くことのほとんどが初めてなので不安。 ・高校までの内容とは全く違って専門的なのでとても不安。 (4件)	
	学ぶことへの楽しみ	・これからどんな勉強をしていくのかとても楽しみ。 (1件)	
	知識・技術を身につけたい		・技術や知識を身につけたい。 ・より専門的な技術や知識を正確に身につけたい。 ・実技と知識を同時に身につけたい。 (4件)
	その他	・先生におまかせします、よろしくお願いします。 (1件)	・実習室を開放してほしい。 (3件)

#### IV. 考 察

##### 1. 講義への期待や希望の記載者数および

###### 1人あたりの記載件数について

入学時より2年次の方が、講義に対する期待や希望を記載した者が多かった。

これは、入学時は教師との最初の出会いであり、コミュニケーションがとれていないこと、また、これから始まる学習内容や方法などが予測できないために、講義に対する期待や希望を記載する者が少なかったのではないかと考える。

しかし、2年次は、1年間の学校生活や教授・学習活動を通して、教師とのコミュニケーションがとれるようになっていたり、自分たちが入学時に記載した希望が取り入れられる体験をしたり、また、これからの学習内容や方法などが予測できるようになったため、講義に対する期待や希望を記載し

た者が多かったのではないかと考える。

次に、入学時・2年次ともに1人当たりの記載件数は、1、2件と少なかった。これは、学生が講義に対する期待や希望を多様にもっていないためではないかと考える。

##### 2. 講義への期待や希望のカテゴリーと具体的な記載内容について

###### 1) 小カテゴリーについて

入学時・2年次ともにあげられていた小カテゴリーとしては“体験談をまじえた講義”“楽しい講義”“理解しやすい講義”などであった。“体験談をまじえた講義”については、学校差はあるとしても田島ら<sup>5)</sup>の調査と同様の傾向を示しており、これから学ぶ未知のものに対して概念的でない実態を講義に希望しているものと考えられる。また、こ

れは実践活動と直結している看護教育の特徴を反映しているものと考えられる。

“楽しい講義”“理解しやすい講義”については、本学の学生に限らず学習者の誰もが講義に期待する普遍的な事柄であるために上げられたものと考えられる。

一方、入学時にあげられた小カテゴリーのうち“頑張ります”“学ぶことへの不安”“学ぶことへの楽しみ”が2年次にはなくなった。これは1年間の学習を通して学習内容が予測できるようになり、予測できないことへの不安は減少したものの、授業進行に伴い、学習内容がより専門的になってきたことや、多種類の科目内容の理解に追われ、楽しみや頑張るなどの姿勢だけではやっていけないのではないかとという現実的な気持ちの現れではないかと考える。

学習することへの楽しみや頑張ろうという気持ちは、学習への取り組みを高める原動力になると考えられるため、学ぶ楽しみが感じられ、頑張ろうという意欲がもてるような教育的アプローチが重要である。

2年次にあらたにあげられたものとしては“校内実習の充実”と“知識・技術を身につけたい”があった。これは、基礎看護学I期実習と看護技術などの授業で校内実習を体験し、専門的な知識はもちろんのこと看護技術の習得の必要性を痛感したためではないかと考える。

## 2) 大カテゴリーについて

入学時・2年次ともに大カテゴリーは、『教師側へのニーズ』と『学生自身の姿勢』であった。これは、入学や新学年といった新しい出発をするときには、相手に期待するだけでなく、自分自身にも課題を課すため、この2者に分かれたものと考えられる。

しかし、大カテゴリー別の記載件数では、入学時より、2年次に『教師側へのニーズ』が増え、逆に『学生自身の姿勢』が減少していた。つまり、入学時よりは、2年次の方が、自分自身に課題を課して学習に取り組むよりは、相手である教師に期待することが多くなったと考える。

寺島<sup>6)</sup>は、看護学生を対象にした学習意欲に関する縦断的調査を通して、「学習意欲は、2年次当初より大きく低下する」と述べている。また、片倉ら<sup>7)</sup>は、学生生活の適応に関する調査を通して、「2年生になると学習の困難さを実感しながら

も、学習以外の個々の生活を楽しもうとする傾向が強い」と述べている。これらの調査対象はいずれも看護系の短期大学生である。このことを考えると、本学においても、2年生になり、学習の困難さを実感しながらも学習意欲が低下し、自分の生活を楽しもうとするため、自分に課題を課すより、相手である教師に依存するようになるのではないかと考える。

教授・学習活動をすすめていく上で、学生が教師に依存的にならない範囲を考慮して、講義に対する期待や希望に応じていくと同時に、主体的に学生自身が自己の学習課題を見いだして、学習活動に取り組んでいくような教育的アプローチが必要であると考えられる。

## 3. 小カテゴリー別の具体的な記載内容について

小カテゴリー別の具体的な記載内容をみると、「充実した講義内容」では、入学時は「専門的な講義」や「理論的な講義」であったが、2年次になると「国家試験、実習に生かせる講義」や「実践に役立つ講義」と国家試験や実践などの現実に直結した内容が記載されていた。また、「体験談をまじえた講義」でも、入学時は「先生の体験談」や「体験談を取り入れて」であったが、2年次には「先生方の看護体験」や「病院などで先生達が体験した話」と聞きたい体験内容がより具体的に記載されていた。

これは、1年間の講義や基礎看護学実習などの学習を通して、2年次になると、概念的でない現実に直結した内容を具体的に求めるようになったことと、学習者が学習に対して主体性がないためではないかと考える。

看護を実践するために必要な知識・技術などを教授していくなかに、学生が希望している現実に直結した内容を取り入れるとともに、学習者である学生の学習に対する主体性を育成していく必要があると考える。

“教育方法の工夫”では、入学時は「一方的でない講義」「ノートをとるだけでなく」「教科書だけでなく」などがあげられていた。このことは、高等教育を受けるにあたり、教科書に基づいた講義と板書内容をノートするという、高等学校までの一定のフォームに準じた学習態度から抜け出そうという気持ちのあらわれではないかと思われる。

しかし、2年次には「資料やスライドをたくさ

ん使用してほしい]などもあげられていたが、「可能なかぎり板書してほしい」「できるだけ口だけでなく、板書してほしい」という板書に対する希望も多くあげられていた。このことは、1年間の学習では、高等学校までの一定のフォームに準じた学習態度から抜け出すことが困難であったことのあらわれではないかと思われる。

田島<sup>8)</sup>も述べているように、入学前の教育課程で身につけた習慣を一気に変えることは難しいが、徐々に自主的学習が習慣化するような教育的アプローチが必要であると思われる。

本研究の限界は、パネル型の縦断研究であるため、学生個々の変化を分析していないこと、また、1学年の調査であるため、一般化に限界があるなどがあげられる。

今後の課題は、これらの限界に挑戦することと、学生の講義への期待や希望を継続的に調査をしながら、それを教授・学習活動に反映させていくことである。

## V. 結論

今回の調査により以下の結果が得られた。

1. 講義に対する期待や希望を記載した者は、入学時より2年次の方が多かった。
2. 1人あたりの記載件数は、入学時・2年次ともに1、2件と少なかった。
3. 入学時・2年次ともに小カテゴリーは、9つであった。両者に共通してみられた小カテゴリーは“充実した講義内容”“体験談をまじえた講義”“楽しい講義”などの6つであった。
4. 入学時・2年次ともに大カテゴリーは、『教師側へのニーズ』『学生自身の姿勢』『その他』の3つになった。2年次の方が入学時に比べ、『教師側へのニーズ』の割合が多かった。
5. 具体的な記載内容は、入学時に比べ2年次は、「国家試験や実習に生かせるような講義」や「実践で役立つ講義」などの現実に直結した内容などであった。

### おわりに

本研究の調査にご協力くださいました本学の看護学科1期生の皆様に心より、お礼申しあげます。

## 引用文献

- 1) 滝内隆子, 大島弓子, 佐々木真紀子, 南雲美代子, 酒井志保: 看護学生の入学時における講義への期待—本学看護学科1期生の実態調査から—, 日本看護研究学会誌, 20(3), 189, 1997.
- 2) 滝内隆子, 大島弓子, 佐々木真紀子, 南雲美代子, 酒井志保: 看護学生の講義への期待や希望の変化—入学時から1年後の縦断調査を通して—, 日本看護研究学会誌, 21(3), 298, 1998.
- 3) 栢山委都子, 奥原秀盛, 竹田千佐子, 小出扶美子, 三岡肖江: 学生は講義をどのように受けとめているか—「出席カード」に表現された内容分析を通して—, 静岡県立大学短期大学部研究紀要, 第9号, 133—145, 1995.
- 4) 佐々木幾美, 平木民子, 出羽澤由美子, 濱田悦子: 看護系大学教育の授業に対する評価, *Quality Nursing*, (4) 10, 16-22, 1998.
- 5) 田島桂子, 野村志保子, 江田純子, 延近久子, 清川浩美, 豊島由樹子, 山中いち: 看護大学入学時における学生の学習のレディネスに関する事前評価—看護行動と関連する生活体験と学習をめぐる内容を中心に—, 日本看護学教育学会誌, 4(1), 29, 1994.
- 6) 寺島喜代子: 看護学生の学習意欲についての縦断的検討—1年次から2年次にかけての変化をとおして—, *看護展望*, 22(10), 78, 1997.
- 7) 片倉久美子, 土田幸子: 本学における学生生活の適応に関する実態調査, 岩手女子短期大学紀要, 第1号, 97, 1993.
- 8) 田島桂子: 看護教育課程と授業展開—看護教育改革の流れを踏まえて—, *Quality Nursing*, (12), 11, 1998.

## 参考文献

- 出羽澤由美子, 佐々木幾美, 濱田悦子: 看護系大学教育に対する評価—充実・役立ち・習得の意識から—, *Quality Nursing*, 4(10), 24-29, 1998.
- 岩永秀子: 看護学生の自己教育力—4年生大学生と看護専門学校生の比較—, *Quality Nursing*, 2(11), 49-56, 1996.
- 前川幸子: 学習者の個性を大切に授業の工夫, *看護教育*, 37(4), 263-266, 1996.
- 中谷啓子: 授業過程を評価する学生の視点に関する研究—実習—, *Quality Nursing*, 4(3), 47-53, 1998.